

## 第68号 「忘れがたき故郷 小笠原」

(令和5年12月1日発行)

今年是小笠原諸島が日本に返還されてから55周年の記念すべき年です。太平洋戦争勃発から3年後、昭和19年にますます激しくなった米軍からの攻撃を逃れ、小笠原諸島島民7,711人のうち軍属として軍に徴用された825人を島に残して、6,886人の島民が内地へ強制疎開されました。

昭和20年8月に戦争は終わったものの、島民達はその後24年間も故郷・小笠原へ帰ることができませんでした。硫黄島、北硫黄島の島民達は未だに帰島を許されていません。

戦争が終われば故郷の島へ帰れると思っていた島民達は、有志が結集し小笠原島・硫黄島帰郷促進連盟を組織し、帰島運動を開始いたしました。

この運動の最中、積極的に帰島運動を推進していた父島の菊池虎彦さん、母島の前田定さん、硫黄島の冬木道太郎さんの3人が、やはり同じく祖国復帰運動に取り組んでいた南千島（北方領土）、沖縄の同胞たちとともに、故郷への想いを「望郷」をテーマに文章にして綴っております。

今号では、昭和32年に綴られた3人の望郷の想いを掲載させていただきました。

